



幼少年キャンプ研究会カウンセラーユニオンニュースレター

WILDERNESS

〒300-3253茨城県つくば市大曾根3765-4 029-895-3775 info@yoshonencamp.com www.yoshonencamp.com

FORE WORD

春はキャンプ指導者研修会オンパレードでした。いろいろな団体の指導者養成をお手伝いさせていただき、うちのキャンパーはつくづくいい経験しているなと感じます。いい装備、いい経験、いいカウンセラー、うちのキャンパーがキャンプ指導者を目指したら、絶対次元の違う指導者が生まれるよと思います。が、生まれない。なんで????

未だ解決できない課題なので、以下の回答は決して真理とは言えませんが、現段階での解釈です。これを克服するカリキュラムができれば、世界の野外は変わる。

その一、キャンプに関する時間軸。キャンパーにとってのキャンプは1週間/365日、カウンセラーは365日-1週間/365日。指導者にとってキャンプは日頃のアウトプット。何も1年中キャンプのことを考えているとは言わない。規則正しく自立した生活をし、キャンパーや保護者に恥ずかしくないいきいきとした生活をするだけ。そしたら自然に野外のスキルアップのためにも行動できるはず。

その二、学生を対象とする幼少研の特徴として、カウンセラーが第2段階で終わる。第1段階は何もわからずキャンパーから逃避(要領の良い筑波大生はそれっぽく見せる)、第2段階は、あれこれわかってきて、スキルと知識を見せびらかす。キャンパーはこの段階のカウンセラーを神とおおぐ傾向あり。カウンセラーもそれに錯覚。第三段階は、介入と放任のバランスがとれ、真にキャンパーを高める。ここまでするには、マスター三年(にくまんはドクター出てもまだ第2.5段階)。キャンパーにとって第二段階のカウンセラーは、憧れはするが、届かない存在と映る。ほんとはみんなが一步踏み出せば第1段階は単位取得済みなのに。

その三、主体と客体。キャンプ体験は高いお金をかけて買うもの。キャンパー出身のCUメンバーは体験と経済的な負担を引き替えてきた。幼少研は体験は売るものであり、そのための負担と引換に対価を得る。あたり前と言えばあたりまえ。でもそのギアが入れ替わらない。コンビニで腐ったおにぎり売られたと思うか?英会話教室に入ったものの講師が英語を話せなかったらどう思うか?「がんばろう」とキャンパーにいうカウンセラーが「がんばる」ことを知らなかったらどう思うか。答えは簡単である。



現在の、日本の野外の指導者は、必ずしも、子どものころ、キャンプ経験があったわけではなく、主に大学時代にキャンプの世界と出会い、彼がキャンプ界をリードしている。スポーツで考えると、大学からサッカーを始めた人間で、ワールドカップを戦っているようなもの。かく言う私もその一人。それでいいのか、キャンパー諸君。

06月役員会報告

以下の内容で決定しました。

参加役員：佐藤、中川、岡村

①秋ゆめキャンプ開催について

日程の決定においては以下の事を配慮し、佐藤がPDとして動く。

- ・10月21日~23日は野外教育学会
- ・10月15、16日に花山にて被災地の学校の先生方を対象とした体験学習研修会(未定)

※次回のVision原稿締切の段階で募集が出来るよう準備を進める。

②キャンプフェスタ参加について

29日に企画案を役員会に提出、修正出来るよう、構成メンバーを早急に集め、企画案を作成する。

また、今回締切直前の企画になってしまった原因は、キャンプフェスタの内容が伝わっていない点、動き出しの遅さである。

③下半期月例会内容について

広報委員会により、上半期の月例会に関するアンケートを実施する。

また、アンケート内で、会員の都合の悪い日程を調査し、参加可能な人数が多い日を月例会の日程として優先する。

次回月例会で、下半期の月例会日時・内容を決定する。

06月月例会報告

6月26日(日)、幼少年キャンプ研究会事務局で少し遅い6月月例会が行われました。

今回の参加者は常連の(笑)ぱく・ふゆりん・よっちゃんに加え、伊藤大悟(ダニエル)・山岸哲也(そんちょう)・福田立樹(ビーン)・遠藤愛(もら)が参加してくれました。この4人は今年の花山キャンプに参加してくれるメンバーでもあります。ちなみにダニエル・そんちょう



う・ビーンは元花山キャンパーです。
 そんな3人を見て、ばくとふゆりんは保護者のような気持ちになっていたかもしれせんね（笑）

さて、今回の月例会のメインは

- 1、花山キャンプ関係の発送作業
- 2、レスキューテクニクトレーニング です。

発送作業は2時間程度で終了しました。やはり、人数が多いと早いですね。1~2週間後ぐらいにはニュースレターが今回参加して下さるキャンパーのもとへと届けられます。3月におこった東日本大震災の影響で一時期開催が危ぶまれた花山キャンプですが、被災地を盛り上げるという意味でも今回開催が決まりました。こういう状況でわが子を幼年キャンプ研究会に預けてくれる保護者の方々に大変感謝しないとイケないですね。CUメンバーの方々、全力を尽くしていきましょう！！

レスキューテクニクトレーニング

○搬送法について

まずは何も指導のない状態にその場にあるものでどう負傷者を運んでいくかを考えました。条件はただ一つ…

背負うこと、ただし手が空くようにする。

この条件で様々な案がでました。

ザイルを使おうか・・・

ザックを使おうか・・・

角材なら山にあるから角材を使おうか・・・

一番面白かったアイデアは背負い法ではないですが、ビーン・ダニエル・もらの3人組が2本のストックと雨具で担架を作ろうとしました。惜しい考えではありましたが、ストックが折れる危険性もあり、不安定でもあります。ストックを角材に変更し角材に雨具を着せ担架を作りました。



今回習ったいくつかの方法を紹介します！！

I、ザイルで2つの輪を作り、負傷者を背負う方法…男性には少し痛いそうです。

II、ザックで背負う方法…負傷者にハーネス、ザックにスリングをつけ、2つをカラビナで繋ぎ、負傷者を吊ります。

III、ザックで背負う方法パート2…背負う人とザックの間に負傷者を挟む。この方法のポイントはザックを逆さまに使うことです。

これらを勉強した後、応用編ということでシチュエーション課題に取り組みました。その様子はCUのHPをご覧ください。

最後によくあるという「尺骨骨折」の固定法を勉強しました。これは銀マットやエアーマットで腕を包み、テーピングで固定しました。銀マットやエアーマットは万全な装備だと感じた瞬間でもありました。

<感想>

今回は初参加の4人が参加してくれました。それぞれ別の大学に通い、最も人数の多い筑波大学でも学類はバラ

バラ、というようなメンバーでCU会員の多様性を感じました。様々な視点を持つメンバーが集まって夏のキャンプを作っていくので、今年の夏は面白くなるのではないかなとワクワクです。

また、このタイミングでレスキュー講習会を行うことができ、初スタッフの面々にもスタッフとしての緊張感が出てきました。

キャンプ本番でカウンセラーとして活躍するには、キャンプ以外の時にどう過ごすかが大事。「キャンプの時は頑張ろう」という考えではなく、「キャンプ前から頑張ろう」という意識を持つ、いいきっかけになった月例会だったのではないかと思います。（ふゆりん）

○東京YWCA リーダー研修会

6月11日・12日と東京YWCAのリーダー研修会の指導に行ってきました。研修の目的は、指導法・安全管理・環境保全の理解の3本柱。一つだけでも二日間の研修をできそうな内容をすべて詰め込み、しかも一連の流れの中で目的を達成するといった、めっちゃくちゃ高度なカリキュラムに挑みました。

内容につきましては、ニュースレターには一部しか載せることができないため詳しくはHPをご覧ください。

1. ASE体験&KYT1

ASEとしてエレクトリックフェンスを行いました。しかし、実はこのエレフェンは、KYT（危険予知トレーニング）のための教材。「今のASEをふりかえり、セッティングや参加者の行動で危険と感じたところを挙げて下さい。」すべて出そろったところで、今度はそのリスクをどうコントロールするかディスカッション。結果は

以下の通り。

リスク→対策

- ・肩車をして落ちそうになった
→スポッティング、注意喚起
- ・石があった（実は事前にまいておいた）
→事前に排除する
- ・切り株があった（実はわざとそこを選んだ）
→そういう場所を選ばない
- ・ロープが伸びない
→伸縮性の高いものを使う
- ・高飛びのような解決方法を選択した
→助走をつけられないような設定にする
- ※丸太等の使用を認めそれ以外の解決方法を考えられるようにする
- ・裸足になった→靴は脱がないことを徹底する
- ※汚れても仕方がないことを指導する

2. LNT夜は研修室で環境配慮スキルトレーニング

キャンプにおける環境保全の考え方、LNTの簡単な解説を行い、いつものLNTスタンツ。王様ゲームで2名担当者を決めて、即興で一つの原理ごとに発表。参加者は、スタンツの経験があまりないらしく、緊張はピークに。それでも、原理が進むにつれ、仕込み時間とスタンツのクオリティーもめっちゃくちゃ高くなりました。

そのあと、「野尻キャンプ」を想定して、「もっと自然に優しくできる場所」を挙げ、KJ法で解決の糸口を探るワークショップを計画していましたが、参加者のほとんどが野尻に行ったことないことと、バクの最初のウィルダネストークがいつも通り引っ張り、時間切れで今日はここまで。それでも、自分たちの活動、指導を、環境保全の観点で見つめ直す良いきっかけになったようです。

今回、指導法、安全、環境を猛ダッシュでトレーニングしました。一般的にこれらの要素は別々に講習されますが、実際には一つのシチュエーションにおいて、常に総合的に考えられています。今回3つをいっぺんにやったことによって、参加者が常にそれぞれを意識しながら講習を進められたことが大きな、成果、発見でした。

(バク)

○新メンバー加入☆

・水村賢治(けんじ)

初めまして、先日バクの講習を受けました、水村賢治と申します。

キャンプでは「けんじ」と呼ばれております。東京三鷹のICU(国際基督教大学)を卒業して、現在はエネルギー系の小さなシンクタンクで働いています。

大学時代は学生向けのOrganized Campに参加(場所は野尻湖、顧問は高橋伸さんでした)、その後運営に携わりました。また、高尾の森わくわくビレッジ(English Camp、Summer Campのカウンセラー)、東京YWCA国領センター(障がいをもつ子のキャンプリーダー)も続けています。今年の夏は東京YWCAの野尻キャンプにいかうと思っています。

趣味でときどき登山をしたり(先週の講習をうけて、これまで自分がどれだけ不必要なリスクを抱えて登っていたかを思い知りましたが。。。)、サイクリングに行ったり、ギターを弾いたりしています。

キャンプとか、山とか、音楽とか…自分がちっちゃな存在なんだということを思い出させてくれるから好きです。

・福田たつき

東京理科大学理工学部物理学科1年

こんにちは。東京理科大学理工学部物理学科に通っています。初めてのキャンプは幼稚園年長の時でした。その時は泣きながら出発した記憶があります。それ以来、花山キャンプでたくさんを感じてきました。今こうして自分の進みたい道を見つけれられたのもキャンプによるものがほとんどだと思っています。これからはCUの一員としてキャンプで感じたことを生かして活動に参加したいと思っています。よろしくお願いします。

・伊藤大悟

武蔵野大学2年

花山へのスタッフ参加に既に不安とプレッシャーを感じまくっているダニエルですが頑張って行きますのでどうかサポートよろしくお祈りします!!ちなみに俺は褒めて伸びるタイプです(笑)

○キャンプフェスタ企画(仮)決定

実行委員

佐藤、中川、安藤、堀内(委員長)、石部

【企画タイトル】

将来のキャンプを支える若い人材はいつ育つ!?(仮)

【企画の内容】

大学時代に子ども達とキャンプやってたなあ…っていう人、それをきっかけに人生をかける仕事にした人。その違いは何だろう?そのヒントを探るべく、キャンプの世界で働く人たちの、キャンプを続けようと思ったきっかけを集めます。進路に悩む大学生、大学生リーダー育成に携わる方など、共に考えてみませんか。

○CUのHP投稿記事に関して

やっと形になってきたCUのHP!!最近、リニューアルしたのはご存じですか?すこしかっこよくしてみました。現在、つくばのCU会員の情報は投稿していますが、皆さんの様子も載せていきたいと考えています。投稿のシステムが整いましたらご連絡いたします。ネタを仕込んでお待ちください。

CU HP: <http://yoshonencamp.com/cu/>

○ニュースレターの文章募集★

今回、書籍紹介にアドウが登場しました!!随時、CUメンバーにお願いする箇所があると思いますので、楽しみにお待ちください(笑)

PROFESSIONAL
OPPORTUNITIES

○2011年7月月例会

7月月例会を次の通り開催します。

日時: 2011年7月()

場所: 幼少年キャンプ研究会事務局

(つくば市大曾根 3765-4/つくバス北部シャトル大穂庁舎下車徒歩5分)

内容: 筑波山でのナビゲーション(地図・コンパス)の練習

出欠: 7月23日(土)までに佐藤冬果(080-1211-8971/fuyu-sato.0103@docomo.ne.jp)に必ず出欠の連絡をして下さい。

○今後の月例会・研修合宿の予定

・8月月例会

花山キャンプ中のため行いません。

・9月以降の月例会はまだ決定しておりません。もうしばらくお待ちください。



・第6回研修会合宿

キャンプフェスタ参加の予定

日程：9月22日(木)～25日(日)

主催：社団法人 日本キャンプ協会

場所：静岡県朝霧野外活動センター

対象：誰でもOK

宿泊：テント泊

参加費：9800円

CUが提案する企画内容:このキャンプフェスタは様々な団体などが企画を提案し、キャンプを構成していきます。そのため、CUとしても企画を出します。企画は75分/1セクションです。企画内容としては「NEWS BRIEFS」に記載されています。

実行委員でない方の意見もお待ちしておりますので、是非、ご意見・ご指摘よろしくお願ひします。

キャンプフェスタ説明：

1861年にフレッドリック・ウィリアム・ガンが北米コネティカット州で始めた組織キャンプは今年で150周年を迎えることとなりました。また、日本にキャンプがやってきてから90年の時間が流れました。

キャンプは自然の中で営まれ、そこで展開されるさまざまな活動がキャンパーに様々なインパクトをもたらし、一生ものの体験として一人ひとりのキャンパーの成長を支えてきました。一方、このようなキャンプを導く人々の集いとして発足したのが「日本キャンプ協会」であり、今から45年前の1966年に東京に設立されました。

日本キャンプ協会は、常に今という時代に必要とされるキャンプを追及しながら「Camping for All(すべての人々の間にキャンプを)」の願いのもとにキャンプの普及活動を続けてきました。

今年で45周年を迎える日本キャンプ協会は「Gift for the Next 100 Years」というスローガンをかけ、次世代への贈り物として新しいキャンプを提案していきたいと願っています。

新しいキャンプのはじまりを予感させる「キャンプフェスタ 富士・朝霧」に全国から集まりましょう。

キャンプフェスタの詳細：

日本キャンプ協会のHPをご覧ください。

ご意見・参加の連絡先：佐藤冬果（ふゆりん）

(s0810697@u.tsukuba.ac.jp, 08012118971)

○書籍紹介

CUメンバーのアドゥより

紹介です！！

『No Limit』

著者：栗城忠多

登山と通して人生論を熱く、熱く、暑苦しいくらい語っている本。言っていることが合っているか合っていないかは別にして自分の好きなことをしてこんなにも人生を語れる語れる人を私は尊敬します。

登山が好き嫌いは別にして自分の人生を「熱く」したい人はお勧め☆

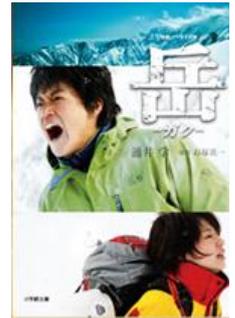
RESOURCES



今月号は**オススメ映画**を一つ！！

よっちゃんは1人で映画館に行けるほど、映画が大好きです。そんなよっちゃんが昨日、ずっと観たかった『岳』を観てきました。漫画の「岳」を知らない分、映画がすべてでしたが、いろんな意味でもものすごく楽しませてもらいました。

“山の危険”と“山の魅力”の両方が感じられる映画です。近々、DVDで発売させるとお思いますので、山に登る人は是非、観て下さい。



FROM
THE
EDITOR

個人的な話になりますがCUの代表・副代表ともに6月末から3週間、教育実習に行ってきました。2人ともキャンプで鍛えられていた分、うまく乗り切ってきました。それぞれ、教育実習を終えて感じたことは違ったようですが、いい経験ができたなと感じています。

さて、2011年も7月となり、後半に入りました。皆さんの2011年前半はどのような半年でしたか？ここで、半年間の自分を振り返ってみて下さい。「ここ良かった」「あそこ、失敗したなあ」など浮かんでくることがあると思います。その浮かんだことをしっかり自分の中で整理し、2011後半に向かっていって下さい。

2011年が終わる頃、皆さんが1年の出来事を笑顔で話していることを楽しみにしています。2011年後半も頑張っていきましょう(^o^)/ (よっちゃん)

